

<全体分析>

試験時間 75分

解答形式

選択式・記述式(マークシートは使用しない)

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

大問3題, 小問61(記号46 記述15), 昨年(2/5実施)は小問59であり, やや増加した。

解答時間は十分にある, 昨年と比べて難易度はやや難化。

出題の特徴や昨年との変更点

昨年と同じくアジア史1題, 欧米史2題であった。

〔Ⅱ〕〔Ⅲ〕で3文の組合せ正誤問題(8つの選択肢から正答を選ぶ形式になる)が計7題出題された。

その他トピックス

昨年は全日程で大問2題だった書籍からの引用をリード文とする形式が, 本日程だけで大問2題で採用された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記号空所 記号設問 記号正誤 記述設問	南京の歴史	古代～現代の南京の歴史を概観しつつ, 政治や文化の関連事項が問われている。正誤問題は正確な知識を必要とするものが多く, 正しい文の数を答える設問6の選択肢エ. は茶が宋代の重要な輸出品であるかどうかの判定に迷う。	やや難
II	記号設問 記号正誤 記述空所 記述設問	中世のドイツ	坂井榮八郎『ドイツ史10講』から, 中世のドイツに関する部分を引用し, 関連する事項をヨーロッパ史を中心に幅広く扱っている。消去法が使えない8択となる問題が20問中6題あり, 両シチリア王国の建国が11世紀ではないことを見抜く設問4など, 年代も含めた正確な知識が求められている。また設問15ではやや書きづらい「有輪犁」が正答となるが, 一般には「重量有輪犁」として知られるだけに, 「漢字三文字で」という指示を見落とさないように気をつけたい。	やや難
III	記号空所 記号設問 記号正誤 記述空所 記述設問	19世紀半ば～20世紀初めのイギリス	君塚直隆『物語イギリスの歴史(下)』から19世紀半ば～20世紀初めを扱った4カ所を引用し, 同時期のイギリス政治史を中心に出題されている。設問8では(か)で「ザミンダーリー」制, (き)で「ライヤットワーリー」制が問われており, 正確な区別が必要である。また, 第2回選挙法改正の内容を判断する設問10は迷うだろう。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

標準的な問題を中心に出題されるので, 教科書・用語集をベースにした学習を進めるのがよいだろう。正誤問題にはさまざまなパターンがあり, 「正しいものを選ぶ」のか「正しいものの数を答える」のかなどを見落とさないように注意したい。3つの選択肢の正誤の組合せで8択となる問題など, 消去法が使えない形式も多いので, 選択肢中の誤りを見落とさない正確な知識を身につけることが肝要である。解答用紙への記入に当たっては, 煩雑な指示に惑わされないように十分に注意するとともに, 同志社大学が再三注意を喚起している「ア」と「マ」, 「ツ」と「シ」, 「リ」と「ソ」と「ン」などの書き分けにも気をつけたい。